

博報財団 第13回「博報日本研究フェローシップ」成果報告書

I. 研究成果概要

氏名(フリガナ)	Kelihan Maya Bedros (ケリヤン マヤ ベドロス)
在住国名	ブルガリア
所属・役職	ブルガリア科学研究院・教授
招聘回(招聘研究期間)	第13回(2018年9月1日～2019年8月31日)
受入機関	京都大学大学院文学研究科
招聘研究テーマ	日本とブルガリアの地域社会における祭礼比較を通して
研究目的	<p>祭りは今日なお地域文化の重要な構成要素です。祭りは地域のアイデンティティと深く関わっています。こうした祭りは、形を変えながらも世代を超えて時代を超え継承されています。今日、地域社会が経験している激しい変化は、それぞれの祭りに大きな変化をもたらし、それがさらに地域社会における新たな変化を引き起こすことになるでしょう。祭りを通じてこのプロジェクトでは、地域コミュニティと地域住民との動的な関係性を明らかにします。</p> <p>研究課題は：</p> <p>1)今日の祭礼の保存、組織、実践において主要な役割を担うアクターを同定し、その活動と動機を変化を含めて分析する。</p> <p>2)どのような宗教的あるいは儀礼的实践や意識が変容しやすいのかを確定し、地域コミュニティに対するアイデンティティの変容やその社会的ネットワーク内の変化がその過程でどのようにして生じるのかを解明する。</p>
研究成果概要	
<p>1. どのように研究を進めたか(具体的に)調査方法は、文献資料の基礎調査、フィールド調査、地域の人たちとの調査方法や結果に関する討論や資料収集などを包括したものです。具体的には以下があげられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学など図書館や地域コミュニティの祭礼についての既存の文献調査、資料、データ調査。 ・松ヶ崎地区に保管されている文書をもとに地域の人たちにインタビューの実施。また夏祭りに参加するなど参与観察を行った。 <p>三重県熊野市にて現地調査を実施し、甫母町において区長さんに地域で実施している祭礼についてまた地域コミュニティについてのインタビューを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊野市丸山千枚田におけるむしおくりについて資料収集と聞き取り調査。 	
<p>2. 研究によりどのような知見が得られたか(具体的に) 地域コミュニティは固定された社会ではなく不断に変化しています。この変化はまた、その構造、アイデンティティ、伝統的な行事に対しても大きな影響を及ぼし、その影響が今度は逆に地域社会に新たな変化を作り出すという複雑で動的な関係性が確認できました。</p> <p>都市と農村では違いがあります。都市部の地域コミュニティには、ビジネスエリア、住宅エリア、都市農業エリアが含まれます。特に重要なことは旧住民と新住民の間に注意を払うことです。多くの地域で、新住民が宗教的な儀式は行事に参加が許されてません。例えば、松ヶ崎の妙法の送りです。これらの制限は、旧住民を伝統の担い手とし、コミュニティのなかに一定の区別をつけていると言えます。松ヶ崎の妙法の送り火では、この行事に対する参加者の態度にその意味と重要性に大きな違いが見て取れます。旧住民の人々はこの行事は先祖の供養をする大切なものであり、地域社会の重要な行事と考えられています。一方、観光客には五山の送り火は文化的な魅力として見えています。しかし重要なのはこうした伝統的儀礼をめぐる新旧住民の「分断」を縫合する工夫も地域社会は作り出している点です。松ヶ崎では、「送り火」で顕著になる新旧の「分断」を、新たに組織した夏祭りによって修復し共通のアイデンティティと帰属意識を未来世代が持てるような仕組みを作り出しているのです。</p>	

松ヶ崎では、旧住民と新住民の間に区別があるにもかかわらず、両方のコレボレーションによるこうした協働のコミュニティイベントが生まれています。秋祭り、夏祭りの実施は良い例です。地元の小学校と「おやじ会」など新旧住民の協同によるものです。こうしたイベントを通して一体化は、地域文化の存続や子どもたちのアイデンティティの形成に大きな影響を与えます。旧住民は、地元の学校で積極的に歴史、文化、伝統について教えに行きます。

熊野灘の漁港を中心に伝統的な祭りを維持している熊野市の甫母町では、区長さんや役員による献身的な働きが伝統を守っています。熊野市の山間部の丸山千枚田では、少子高齢化で過疎化している地域ですが、地元の伝統は保存され、何十年も経って棚田の復活と虫送りを復活しました。これは熊野市自治体の支援と外部ボランティアの参加なしには実現し継続することはできません。

地元組織、リーダー、協力的な住民、自治体や学校のような機関などの力を活用して、地域コミュニティは、地元のアイデンティティ、社会的紐帯、文化の構成要素として、祭りの基礎を築き維持しています。たしかに過疎化高齢化によって集落機能自体が不全となる危険性を抱えながらも、集落外からのサポートを得ながら、コミュニティの祭りは今日も再生産されているのです。もちろん先述した機能的な諸機関との協力がなければ地域コミュニティは祭りを継続することができませんし、祭りに参加する人々の動機は、その活動を組織している地域コミュニティの役割を知らずには理解できません。しかし地域コミュニティは、さまざまな創意工夫を凝らしながら新たな形を模索しているのです。

3. 研究成果(予定を含む)

○論文(題目, 掲載誌, 発行者, 掲載月, 内容の概略(200字以内))

・Keliyan, M. 2019. Middle Strata Consumption Patterns as a “Key” for Understanding Japanese Society”. In: Krasteva-Blagoeva, E. (ed). *Approaching Consumer Culture: Global Flows and Local Contexts*. Springer, Cham, Switzerland. ISBN: 978-3-030-00225-1, 271-287. 英語。この論文は日本の消費文化を研究したもので、第二次世界大戦後から現代までの中間層の消費パターンに焦点を当てた。

・Keliyan, M. 2019. Keeping Tradition: The Case of a Japanese Fishing Village. In: Nedelcheva, T. (ed.). *Communities, business and local government in the villages: interactions and development opportunities*. Alja Press, Trojan. 印刷中。この論文は 14 頁で、ブルガリア語で書きました。三重県熊野市甫母町で実施している祭礼に関する研究結果の分析。

○口頭発表(題目, イベントの名称, 日・場所, 内容の概略(200字以内))

・「日本とブルガリアの比較:近代化、中間層、地域社会研究において」大学院拡大ゼミナール、2018年12月17日、京都大学大学院文学研究科棟ゼミナール室。日本の社会・文化を研究する際の比較アプローチの価値について議論する。

・「日本とブルガリアの地域社会の比較研究—祭礼を事例として」2019年2月22日、博報財団主催中間報告会
研究目的、方法と研究成果について報告する。

・「日本とブルガリアの地域社会の比較研究—祭礼を事例として」2019年8月23日、博報財団主催報告会。

最終報告として、現代の日本の地域コミュニティが実践している祭りについて社会学的な調査を実施した知見を報告する。

○その他の活動

地域で取り組んでいるスポーツクラブ(卓球)への参加。

4. 今後の活動予定

○ 今年9月、ソフィア大学日本学科主催の、『第30回日本資料専門家欧州協会年次大会 日本学資料の再考』において「日本の地域社会における文化資源としての祭り」を発表します。

○ ブルガリアで日本の地域社会の祭りについての本を出版します。

○ ブルガリアの地域社会が実践する祭りの調査研究を続けます。